

I 北海道の学力向上の取組に関する改善の方向性

本道では、これまで学力向上に向けた取組として、次の4つの視点に基づき改善を図ってきました。

- (1) 検証改善サイクルの確立
- (2) 授業改善
- (3) 小学校と中学校の連携した取組の充実
- (4) 望ましい学習習慣の確立

ここでは、令和3年度（2021年度）全国学力・学習状況調査結果を4つの視点から分析し、改善の方向性と具体的な実践事例を掲載しています。

各市町村教育委員会、学校においては、本資料を参考に、それぞれの取組の工夫・改善を図るなど、児童生徒の学力向上に向けた取組の更なる充実に向け、ご活用ください。

1 本道の状況と改善の方向性

□ 本道の状況

(1) 検証改善サイクルの確立

P. 4

- 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」、「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」などの質問に肯定的に回答した本道の学校の割合は、小・中学校ともに全国に比べて高い傾向がある。
- 上記の質問に「よくしている」と回答した本道の学校の割合は、小・中学校ともに全国に比べて高く、このように回答した学校ほど各教科の平均正答率が高い傾向がある。
- 検証改善サイクルに関する取組を「よくしている」と回答した学校においても、教科の平均正答率が全国を下回っている状況が見られる。

(2) 授業改善

P. 8

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した本道の児童生徒の割合は、増加しており、この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向がある。
- 小・中学校ともに、各教科では、〔知識及び技能〕に比べ、〔思考力・判断力・表現力等〕に係る内容について、全国との差が大きい傾向がある。また、問題形式では、選択式に比べ、短答式や記述式といった何らかの記述を要する問題について、全国との差が大きい傾向がある。

(3) 小学校と中学校の連携した取組の充実

P. 23

- 「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小（中）学校と成果や課題を共有しましたか」、「近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか」との質問について、肯定的に回答した本道の学校の割合は、小・中学校ともに全国に比べて高い傾向がある。
- 小中連携に関する取組を「よく行った」と回答した学校においても、教科の平均正答率が全国を下回っている状況が見られる。

(4) 望ましい学習習慣の確立

P. 26

- 家庭での学習習慣に関する項目について、次のように回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い。
 - ・ 1日当たりの学習時間が長い
 - ・ 1日当たりのテレビゲームをする時間が短い
 - ・ 家で自分で計画を立てて勉強をしている
- 本道の児童生徒は、全国に比べて1日の学習時間が短く、テレビゲームをする時間が長い傾向が見られる。

■ 改善の方向性

(1) 検証改善サイクルの確立

P. 4~P. 7

□ 校長のリーダーシップ、ミドルリーダーを中心とした組織的な取組

- ・校長のリーダーシップのもと、学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、各種データ等を効果的に活用するなど、PDCAを機能させた検証改善の質を高めることが大切です。
- ・教職員同士の協力体制を確立し、人材育成に取り組むなど、全教職員の学校経営への参画を構築することが大切です。

(2) 授業改善

P. 8~P. 22

□ 全ての教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現と言語活動の充実

- ・自ら問題を見だし、解決方法を探して決定し、実行し、振り返る過程を重視することが大切です。
- ・自分の考えをもち、言葉や文章で表したり、その考えを伝え合うなどの言語活動を充実させることが大切です。
- ・他者と協働しながら一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出すことを実感できる授業を工夫することが大切です。

(3) 小学校と中学校の連携した取組の充実

P. 23~P. 25

□ 目指す子ども像の共有、系統性を踏まえた指導の組織的な展開

- ・目指す子ども像の実現に向け、児童生徒の学習状況や地域の実態等を踏まえ、課題に即した具体性をもった目標設定（目標の可視化）や取組内容等を明確にした組織づくりが大切です。
- ・同一中学校区内の小学校と中学校で各種データ等に基づく成果と課題を共有するとともに、教科の系統性を踏まえた教育課程や指導方法などの接続を確かなものにするなど、小中連携に向けた取組の質を高めることが大切です。

(4) 望ましい学習習慣の確立

P. 26~P. 28

□ 望ましい学習習慣、生活習慣の確立に向けた学校と家庭・地域との連携

- ・児童生徒が、自ら計画を立てて学習し、規則正しい生活を送ることのできる環境づくりに向けた家庭や地域との協力体制の確立が大切です。
- ・児童生徒の発達の段階に応じた家庭学習の在り方について学校全体で共通理解を図り、一貫した指導を徹底・継続することが大切です。